



2023年2月14日

各 位

会社名 藤 田 観 光 株 式 会 社
代表者名 代表取締役兼社長執行役員 伊勢 宜弘
(コード番号：9722 東証プライム)
問合せ先 取締役企画本部管掌 野崎 浩之
(TEL (03)5981-7723)

通期連結業績予想値と実績値との差異、並びに剰余金の配当に関するお知らせ

2022年8月9日に発表いたしました2022年12月期の通期連結業績予想値と、本日発表の決算実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、本日開催の取締役会において、2022年12月31日を基準日とする普通株式に係る剰余金の配当、優先株式に係る剰余金の配当につきまして、下記のとおり2023年3月29日開催予定の第90期定時株主総会に付議することを決議いたしましたのであわせてお知らせいたします。

記

1. 2022年12月期 通期連結業績予想値と実績値との差異

2022年12月期 通期連結業績 (2022年1月1日～2022年12月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する当期 純 利 益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 40,500	百万円 △6,000	百万円 △5,900	百万円 △4,700	円 銭 △392.14
実 績 値 (B)	43,749	△4,048	△4,461	△5,789	△483.05
増 減 額 (B-A)	3,249	1,951	1,438	△1,089	△90.91
増 減 率 (%)	8.0%	—	—	—	—
(参考) 前期連結実績 (2021年12月期)	28,433	△15,822	△16,542	12,675	1,057.69

2. 通期連結業績予想値と実績値との差異の理由

売上面では、第4四半期連結会計期間(2022年10月1日～2022年12月31日)において、インバウンド受け入れの本格再開や全国旅行支援により回復した需要を確実に捉え、各事業とも宿泊部門で客室単価および客室稼働率が好調に推移したことで増収となりました。この増収と連動して営業損失ならびに経常損失も前回発表予想から改善しましたが、親会社株主に帰属する当期純損失は、主に減損損失および事業撤退関連の特別損失を計上したことにより前回発表予想から悪化しました。

なお、詳細につきましては、本日公表の「2022年12月期決算短信〔日本基準〕(連結)」をご覧ください。

3. 剰余金の配当

(1) 配当の内容

< 普通株式 >

	決定額	直近の配当予想 (2022年11月8日公表)	(ご参考) 前期実績 (2021年12月期末)
基準日	2022年12月31日	同左	2021年12月31日
1株当たり配当金	0円00銭	未定	0円00銭
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

< A種優先株式 >

	決定額	直近の配当予想 (2022年11月8日公表)	(ご参考) 前期実績 (2021年12月期末)
基準日	2022年12月31日	同左	2021年12月31日
1株当たり配当金	4,000,000円00銭	未定	1,041,095円89銭
配当金総額	600,000,000円	—	156,164,383円
効力発生日	2023年3月30日	—	2022年3月30日
配当原資	その他資本剰余金	—	その他資本剰余金

(2) 理由

当期の普通株式に係る配当につきましては、当社を取り巻く経営環境や財務状況を総合的に勘案した結果、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

なお、2021年9月に第三者割当により発行した種類株式に係る配当につきましては、発行時に定められた種類株式発行要項に基づき、1株につき4,000,000円00銭を予定しております。

以 上